



高槻ロータリークラブ

2022~2023

WEEKLY BULLETIN

四つのテスト

I 真実かどうか

II みんなに公平か

III 好意と友情を深めるか

IV みんなのためになるかどうか

事務所 〒569-1116 高槻市白梅町 4-1 高槻阪急 6 階

TEL 072-683-1158 FAX 072-683-1174

URL <http://www.takatsukirc.org/>

E-mail takatsuki.rc@bird.ocn.ne.jp

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30

例会場 高槻阪急 6 階 多目的ホール TEL 072-684-5379

創 立 1954 年 6 月 15 日

会長 石田佳弘 幹事 長山正剛 クラブ運営委員長 山室匡史 会報担当副委員長 松下浩章

No.7 2022 年 8 月 24 日 発行

8 月は会員増強・新クラブ結成推進月間

第 3285 回 本日 (8/24) の例会

- ◎ ソング・・・日も風も星も
- ◎ 卓話 外窪 明美君
「私の履歴書」
- ◎ 卓話 井上 隆昭君
「私の履歴書」
- ◎ 例会後の行事
第 8 回地区大会実行委員会

第 3286 回 次週 (8/31) の例会

- ◎ ソング・・・手に手つないで
- ◎ 地区大会実行委員会報告
- ◎ 卓話 江澤 由君
「9 中生 220 人で、
シャッター商店街に命を吹き込もう！」

先週 (8/17) の例会から

◎ゲスト・ビジター

計 0 名

◎出席報告

会員数	出席者数	出席
46 名	38 名	88.37 %
前々回例会補正後出席率		88.64 %
但し、Mup 3 名		欠席者 5 名
出席規定適用免除有資格者		2 名

7 月度皆出席表彰

西田 直弘君	連続 37 年
丹野 亮君	連続 1 年

◎会長の時間

前回の続きです。

8 月はロータリー拡大月間であります。何故、ロータリーは拡大しなければならないのでしょうか。

ロータリーは、当初、会員の親睦と相互扶助を目的として始まりましたが、1 年半位経った頃、ドナルド・カーターは『親睦と相互扶助だけを考えて、世のため人のためのことを考えないクラブは永続性がない。そのようなエゴイズムのクラブには入会しない』と言って入会を断りました。

このことが契機となってシカゴクラブは世のため人のための事も考えるクラブに変わっていったのであります。

世のため人のため即ち奉仕を考えるクラブであればそれはシカゴだけにあるべき筋合いのものではなく、全米の地域社会にあって然かるべきだということでロータリーの拡大が始まったのであります。

したがってロータリー拡大の路線はドナルド・カーターによって敷かれたと言ってもよいのであります。これがロータリーの拡大の理由であります。

1908 年以降サンフランシスコはじめオークランド、シアトル、ニューヨーク、ボストンとクラブが作られて行き、1910 年には全米に 16 のクラブが出来上っていました。

ただクラブを作る作業はクラブにとって大変な負担となりクラブの親睦を崩しましたので全米にクラブを

イマジンロータリー

ジェニファー・ジョーンズ RI 会長

作っていく作業はクラブとは別枠の団体を作ってその団体に任せた方がよいということになり1910年当時すでに全米に存在していた16のクラブをもって全米ロータリークラブ連合会(現在の国際ロータリー即ちRI)を創立しそれにロータリーの拡大の仕事を任せたのであります。

このようにしてロータリーの拡大はRIの仕事の一つになったのであります。

ところでRIはロータリー100周年の2005年までに150万人のロータリアンと言う増強目標を承認する件(01-658)を提案し採択されました。

ロータリーの拡大は国際大会の決議によってRIにゆだねられた仕事でありますから会員を増やすことはRIの職責上当然のことではあります一方、会員数の増加はロータリアンの質の低下を招かないかしたがってロータリーの魅力が失われないか等々色々問題があります。

本来限定会員制の下では限定の枠が厳しいほど魅力が増すものであります。

しかし限定の枠が厳しすぎると会員の増強・ロータリーの拡大を計ることが出来ません。

したがってその調和を計ることが必要であります。

従来からこれ以上会員を増強しロータリーを拡大すると会員の質が低下するという意見があります。

しかしこれは今居る会員だけが良質なことを前提とした議論であります。

良質な会員は今居る会員以外にも沢山いらっしゃる訳でありますから会員増強ロータリーの拡大は計るべきであります。

ただロータリーの魅力を担保するために良質な人を選ぶべきであります。

拡大の方法としては従来存在しなかった新しい職種にも良質な人が居ます。

更に女性にも良質な人が居ます。

これらは新たな拡大の分野として考慮すべきであろうと思います。

良質なものはまだまだ存在します。

したがって拡大は止めるべきではありません。

しかし質の低下を招くような会員増強・ロータリーの拡大はロータリーの魅力を維持するために厳に慎むべきものであります。

まあ良質という表現を使いましたがこれが適切な表現かどうか分かりませんが使わせて頂きました。また会員によっては基準に温度差があるのも事実です。

◎幹事報告

- ・高槻現代劇場よりイベントのチラシが届いております。後方テーブルに置いておりますので、ご自由にお持ち帰り下さい。
- ・2024-25 年度 IM 第 2 組ガバナー補佐立候補者を募集致します。立候補の最低基準は、少なくとも3年間クラブの正会員として会員の義務を果たし、1年間クラブ会長又は6か月間創立会長を務めた経験のある方となります。この最低基準の他にもガバナー補佐人選における他の基準がございますので、詳しくは事務局へお問い合わせ下さい。立候補の締切は8/31(水)です。宜しくお願い致します。

◎委員会報告

- ・本日はございません。

◎卓話

「私の履歴書」

来村 美代子

この度、入会させて頂きました来村みよ子と申します。伝統あるロータリークラブで立派な方ばかりの中、私みたいな者でいいのかと不安に思いながら、それでも誘って頂いたのには何か理由があるはずと、清水の舞台から、いやその倍以上の高さから飛び降りるつもりで入会させて頂きました。今回、皆様の貴重な時間をお借りして、「私の履歴書」という内容でお話しさせて頂きます。こう見えて、自分のことを話すのはとても苦手ですが、すべてさらけ出すつもりで来ておりますので、よろしくお願いいたします。

私は昭和44年、ロータリークラブへの入会日と同じ7月1日に北九州の八幡で生まれました。八幡製鉄所で有名な場所で、私の祖父はまさに八幡製鉄所に勤めていました。家族は造園業を営む父と、ちょっと良いところのお嬢さんだった母、それから妹の4人で住んでいました。両親はどちらも、私たち姉妹を溺愛していました。「恥ずかしいから、やめて」と思うほどの溺愛ぶりです。「うちの子、良いでしょ」「良いセンスしてるでしょ」と自分の子どもを褒めまくる。褒めまくり過ぎて、とにかく恥ずかしかったことを覚えています。

そんな溺愛を受けていたのですが、父はいわゆる「飲む・打つ」の人でした。クルマ道楽もあり、リンカーン、トランザムなどの外車を乗りまわし、おかげで幼い頃から家計は火の車。その上、家庭内暴力もひどく、母は父から逃げるために何度も引っ越して、その度に私たち姉妹も転校を繰り返しました。小学生のうちに50回は転校したと思います。いつも違う制服を着て、転校生だったのでいつも一番後ろに並ばされていました。しかしどこへ転校しても、父は追いかけてきました。家庭の事情から名前を伏せて学校に通っても、探偵を雇い、すぐに私たちを見つけます。学校から出ると、よく黒塗りの車が校門前に停まっていた、私たちは知らないおじさんに捕まえられました。捕まって「あ、浮いてる」と思った記憶があります。そのまま連れられ、私たちを人質に「子どもら、拉致してるで」と父が母に電話をかけていました。母と妹だけが連れて行かれ、私はひとり暗い中でじっと待っているということもありました。そんなことが何度あったかわかりません。アルコール依存症だったときは、「お酒は買えない」と言う、と、ぼこぼこに殴られました。そのくせ、私たち姉妹をめちゃくちゃ溺愛してくれる。不思議で仕方ありませんでした。母も「私にはもったいないぐらいの旦那さん」と言い、酒を飲まないときは寄付が好きで、感謝状をたくさん持っていた父。本当に不思議な父親でした。

中学1年生のとき、母は父から私たちを逃すため、私たちを施設に預けました。しかしその施設は犯罪を犯した子たちと一緒に暮らす児童相談所のようなところでした。警察に捕まったガラの悪い子がたくさんいて、なかなか馴染めません。母がいつ迎えに来てくれるかもわからず、「どうしてこんなところに」と何度も思ったことを覚えています。食事もおいしくありません。でも食べないと食事担当のおばさんからめちゃくちゃ叱られる。それも辛かったです。一度、施設内の子どもたちと脱走を計画したこともあります。ある夜、「逃げるぞ」と飛び出したのですが、残念ながらすぐに捕まりました。

その施設を出たのは、中学2年生のときです。九州から大阪へ。そんな暮らしだったので、勉強が遅れに遅れて、中学2年生ながら小学6年生の内容から勉強をやり直

しました。おかげでなんとか高校にも合格でき、高校時代はなぜかとてもモテました。過去の栄光です。高校卒業後、カバンが好きだったのでカバン屋で数年働き、その後ジョーシン電気に誘ってもらい、日本橋のジョーシン電気に勤めました。当時はワープロ全盛期で、めちゃくちゃ販売しました。「NEC の文豪が安い！いらっしやいませ、いらっしやいませ」と叫ぶ私の声がスピーカーを通して、日本橋の一角に響き渡っていました。今思えば、ジョーシン電気では教養やマナーを教わったと思います。

そして23歳のとき、結婚を機に退職。2年ぐらい、専業主婦をしていました。とても幸せでしたが、これまでのこともあって同じところにずっと留まるのが苦手で、少しずつ退屈にもなり、化粧品会社に勤めました。「自分が好きじゃないと売れへんな」と思っていた自分にピッタリの仕事で、好きな化粧品を売り、たくさん買って頂きました。そして20代なかばのときに、枚方の香里園にエステのお店を出します。エステも好きで販売したりするのも好きで売上は順調に上がっていたのですが、人にどう教えればいいのかわからなくて「思うようにいかへんな」と行き詰りました。

そんなとき、友だちから紹介されたのが「ホームヘルパー」の仕事です。当時はまだ一般的ではなく、「ホームヘルパー？なんやそれ、うさんくさいな」ぐらいしか思わなかったのが、まさか私がホームヘルパーにドハマリすることになるとは思いもしませんでした。はじめて施設見学に訪れたときのこと。女性のオムツ交換を見せてもらいました。身体が硬直してびよびよんと跳ねるカエルのような恰好のまま、オムツを換えてもらいます。誤解を恐れずに言えば、その姿は女性としては恥ずかしい恰好です。でも身体が硬直して本人にはどうすることもできない、しかもたったひとりで家にいる。もう何か大きなものに生かされている、そう思わずにはいられません。カルチャーショックを受け過ぎて、「何かしゃべってあげて」とホームヘルパーさんに言われても、動揺してうまく話すことができません。そんな私に向かって、女性はカエルのような恰好のまま、ぼつりと「ありがとう」と言いました。その「ありがとう」はこれまで頂いたどの「ありがとう」よりも、美しい「ありがとう」でした。化粧品も大事で、エステできれいになるのも大事ですが、本当に大切なことはここにあると感じました。

ホームヘルパーの資格を取ってすぐ、「エステのお店は閉めます」と伝え、「ほんまに必要とされている」と感じたホームヘルパーの道に進むことを決意しました。ただ、ホームヘルパーの道は9割が大変なものでした。なかでも資格を取ってはじめて利用者さんのお宅に伺ったとき。当時はまだ利用者の家族が勝手にホームヘルパーを呼べたので、利用者さんが「来て」と言っていないのに、お宅に伺うことがしばしばありました。そうしてはじめて利用者さんのお宅に伺ったとき、玄関先で利用者さんからいきなり「帰れ！」と言われました。私は夢見るゆめこで「喜ばせてあげたい。絶対に喜んでもらいたい」と思って伺ったのに、いきなりの「帰れ」コール。撃沈しました。助けを求めようにも、利用者さんの家族から見れば私は資格を持ったプロです。頼ることができません。でも「帰れ」コールを浴びる中で、私はこの人に寄り添っていかなあかんねんかと気づいて、時間はかかったものの上からしてもらえるようになりました。じつはその利用者さん、コタツの中に自分の汚れたオムツなどを隠して、それを見つかるのを恐れていたようです。それをきれいに片づけたときに、利用者さんは心

を開いてくれました。そのときに「人の心を開く」というのはこういうことかと思ひ、理想と現実、大変さやうりがいを学んだように思います。中には元やくざの人もいました。やくざならではの高圧的な態度に、まわりの地域包括センターの方々、民生委員さんはすっかり怯えてしまい、私に対しても「俺は刑務所あがりや」と言っただけで脅してききました。ただ、忙しくてその利用者の電話に出られないこともあります。その方は片っ端から「あいつは俺からの電話を取らない」とクレームまがいのことを言いふらします。仕方なく折り返し電話をかけると、「おまえ、なんで電話取らへんねん！」と怒鳴り声。罵声を浴びせられました。しかし利用者はその方だけではありません。忙しくて電話に出られないこともあります。そう説明しても、怒鳴り声は止まりません。そして、ついに「おまえ、だれにもの言うとなねん！」ついつい私のほうがブチ切れてしまいました。「刑務所がなんぼのものや。なめとったらあかんで！」言わないでおこうと思っていたことがどんどん溢れてしまいました。相手はまさか言い返されると思っていなかったようです。

「私はあんたの刑務所と付き合ってるのと違う。あんた自身と付き合ってるんや。私はあんたを大事やと思って向き合ってるのに、なんや、その上からなもの言いは」「ごめんなさい。姉ちゃん、参った。降参です」そして「姉ちゃんについていくわ」と心を開いてくれました。その昔、施設に入っている人なたちと接してきた経験が活きました。たぶん「私になに言うてもあかん」と気づいたんだと思います。その他、たくさんの人と出会わせて頂き、また人が亡くなる場面にも何度も立ち合わせて頂き、様々なドラマがたくさんある仕事を20年以上させて頂きました。

そんな中で、旦那の両親が末期ガンになりました。義理の母が「仕事をやめて、私たちのお世話をしてほしい」と言いました。仕事は楽しく、またお金も必要だったため、どうしようかと散々悩みましたが、私はホームヘルパーの仕事を辞めて、義理の両親のお世話をすることにしました。両親は本当に私を可愛がってくれて、義理の父はせつせと世話をする私に対して、「ごめんな。でもみよ子さんにはこれ以上迷惑はかけられへん。だから僕は病院に行きます」と言いました。驚いたのは私です。「ええっ！」と思って、「そんな病院行かんでもいいよ。私、ここにおるから」必死にそう伝えました。そして5年ぐらい前に二人を看取りました。義理の両親が望む100%ではなかったかもしれませんが。でも仏壇に手を合わせたときに「ええ嫁やったやろ？」と尋ねたら、「ありがとう」そう言ってもらえる、そんなことはちょっとでもしてあげられたかなと思います。

ただ、義理の両親二人を看取ったら、突然心にぽっかりと穴が開いたようになりました。本当に両親のために精いっぱいだったので、「私、これからどうしたらええんやろ」とこれから先、どうして良いのかわからなくなっていました。当時の私はうつっぽくなっていたと思います。もう介護もやり尽くして、またイチから履歴書を書いて新人として始める力もありません。そのとき、ふと友だちから「介護教員という資格があるからやってみたら」と言われて、われにもすがる想いで介護教員の資格を取りました。介護に関わる人たちに介護のことを教える先生です。それから現在に至るまで、介護教員の仕事をしています。

私にはもうひとつの顔があります。義理の両親を失って、途方に暮れてうつっぽくなっているとき、私はひとりの講演家と出会いました。それが中村文昭さんです。

はじめはYouTube で出会い、「できない理由は言わない」「頼まれごととは試されごと」「今できることをやる」などいろんな学びを得ました。5年ぐらい励ましてもらい、支えてもらったと思います。その御礼をと思い、2018年に寝屋川で1,000人規模の中村文昭講演会を企画。主催を務めて、実際に1,000人の会場をいっぱいにしました。現在は中村文昭さんが塾長を務める「ご縁紡ぎ大学関西校」の主催もさせて頂き、そのご縁で全国に仲間が増えました。また、講演会を主催したときに、壇上の垂れ幕を誰に書いてもらうかで時間がかかった経緯から、「それやったら自分で書きたい」と書道を習い始めました。ただ、書道の心得がない私は普通の書道ではなく、「楽しむ」に重きを置いた書道を求め、「己書道場」で習い始めます。現在、師範代の弟子を6人持ち、私自身は全国に100人もいない上席師範に昇格。「好きやねん己書道場」の先生としても活動しています。

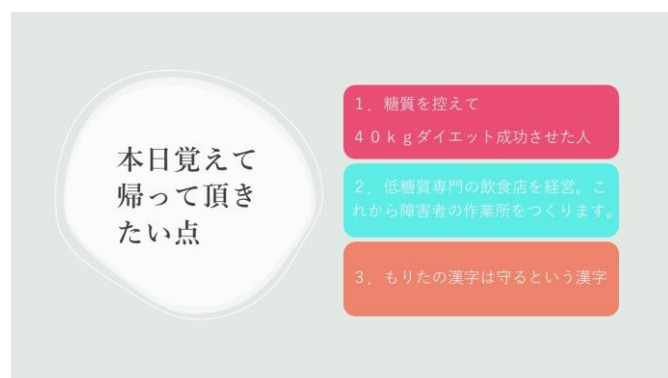
そういう風に自分でことを起こしていく中で、「自分でも何かやってみたい」と思い、経営の勉強も始めています。それが東洋哲学です。陽明学や日本の宗教観をひも解きながら、3000年の統計から100年企業に至るための法則を学んでいます。そうしていつかは自分も経営者になって、人を喜ばせたいと考えています。私は子どもの頃の体験もあって、例えば10人いてひとりでも寂しい人がいたら嫌だと感じます。そんな人がいたら温かく包み込んであげたい。それは物心ついたときからホームヘルパーのときも、今も思っていることです。

最後に、父とのその後のことを話したいと思います。「飲む・打つ」の上、家庭内暴力が止まらなかった父と離れて、数十年。父は変わらず造園業を営んでいたのですが、あるときクレーン車と一緒にひっくり返って足の骨を折ってしまいました。なんとか退院して松葉杖で生活を送っていたのですが、そんなときさらに階段から落ちて頭を打ち、脳に障害を負ってしまいました。高次脳機能障害でした。記憶を司る脳が損傷してしまったようです。まわりに頼れる人もなく、私の立ち合いがなければ手術ができない、と言われ、私は父の住む北九州に向かいました。ベッドに横たわる父を見て、お医者さんから「記憶を取りますか。それとも生かしますか」と言われました。これまでのことを覚えていたという記憶を取ったら植物人間のように生きなければならない。長く生きるほうを取ったらこれまでの記憶は残らない。まるで究極の選択でした。それでも「楽しく第二の人生を生きてほしいな」と願いを込めて、これまでの記憶がなくなっても良い、身体が動いて生きていけるほうをお医者さんをお願いしました。そして術後、目を覚ました父に向かって「お父さん？」と呼びかけたら、「みよ子か」と私のことを覚えていました。妹のことも覚えていて、記憶が残らないと言われていた私は妹とふたりで号泣しました。最後はグループホームに入って、肺炎をこじらせて亡くなったのですが、亡くなる直前「そろそろヤマかもしれません」と連絡を受けて、私は飛んでいき、父の身体をすべて丁寧に拭いてあげて最期を看取りました。めちゃくちゃな父でしたけど、私にできる精いっぱいことはさせてもらったように思います。

これまで取り留めのない話をさせて頂きました。振り返ってみれば、本当に人との出会いの中で生かされてきた、と改めて感じます。そしてここロータリークラブでも会長さんやお医者さん、魅力的な方たちばかりです。ここでもまたたくさんの出会いがありますこと、とても嬉しくて仕方ありません。どこにでもいる一般人ですが、どうぞ私たちを可愛がって頂ければ、と思います。今後ともなにとぞよろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。



この度、入会させていただいた守田幸司と申します。本日は貴重なお時間を頂きありがとうございます。お聞きぐるしい点もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



本日私に関して覚えて帰って頂きたい点は3点ございます。

- ・糖質を控えて40kgダイエット成功させた人
- ・低糖質の飲食店をしており、これから障がい者の作業所を作ります。
- ・最後に、もりたのもりは守という漢字になります。

この3点だけ覚えていただければ大丈夫です！それでは、私の履歴書スタートさせて頂きます。よろしくお願いいたします。



1. 生誕～幼少時代

1977年2月8日に生まれました。両親と2歳年上の兄がおります。兄には耳が聞こえないという障がいがあり、兄の勉強のために幼少期は西宮に住んでいた事もあるそうですが、基本的には高槻育ちです。

こちらにあるように、日吉台を中心に生息しておりました。

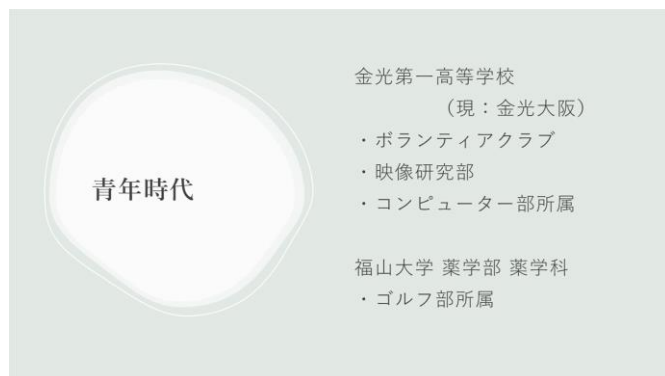
あまり覚えてはいませんが、おとなしい子供という感じではなかったかと思います。
ただ、持病として喘息をもっていました。
喘息は発作が出た時に息が苦しくなり何もできなくなってしまう病気で、友達と遊んでいても発作が出ると急に遊べなくなったり、夜中にもよく発作が起きて寝れなくなったりという感じでした。

病院に行って吸入をするとすぐに良くなるという事で、病院に着いたときは死にそうになってるのに、帰りには鼻歌を歌って帰るくらい元気になってました。

喘息発作が起きた時には夜中でも診察していただいた近所の先生には大変お世話になったことを覚えております。

なんと、その先生がこのロータリーの山口先生です。
先生、当時はありがとうございました。

発作があっても吸入をしたら、息苦しいのがすぐに治るという事で薬ってすごい！！と思い、薬剤師を目指し始めたのがこのころです。



2. 青年時代

高校では兄が難聴ということもありボランティアクラブに所属。
しかし、ほとんど活動しておらず、となりにあった映像研究部でよくあそんでおりました。
また、コンピューター部にも誘われ所属。
3つの部活に入っていたのは学内で私だけで、卒業アルバムにはちゃんと3か所映っております。

勉強はしていた記憶はあまりないのですが、大学では一人暮らしがしたかった為、広島県の福山大学に入学することになりました。
高校からは初めての薬学部だと言われたことを覚えています。

当時の薬学部は女性が多く、7割くらいが女性でハーレムを想像して入学しました。
その為の一人暮らしがしたいという願望だったのですが。
しかし、いざ入ってみると大変！

男性が少ない為、学校の中では端っこに追いやられ、まるで女子校のような状況でした。

その中でもしっかり楽しもうと、幹事的なことをよくやっておりました。

今のように携帯もなかったので、授業中に手紙を回してスキーに行ったり、学内にあった女子寮の前で花見をしたり。
もちろん女子寮からの合流を見込んで大量のお酒を持ち込んで。

目論見はしっかり成功したのですが、あとでこっぴどく教授に怒られてしまいました。

けっこう遊んだりはしていたのですが、幹事は無料になるように予算を組んでいたのが、アルバイトはあまりせず、ゴルフ部に入ると日雇いのキャディのバイトができるとの事で、入部し、お金が無くなるとキャディに行くという感じでした。

当時で1日1万円という金額は学生にはかなりありがたかった事を覚えています。
しかもお客様から頂けるビールの特典付き！

ゴルフは楽しくプレーすることをモットーにしていますので、気軽に誘ってください。

しかし、遊んでいたばかりではなく、さすがに大学4回生の頃は勉強した気がします。
今振り返っても人生でこんなに勉強したことないなと思うくらいです。
国家試験の合格率が高いというのは、卒業試験が難しいんだなってことは入学してから気付きましたが、なんとかストレートで卒業する事ができました。
薬学部は、今は6年制になっているので、あと2年くらいゆっくり学生していてもよかったかな？と思ったりもします。

現在、大学と共同研究もさせていただいておりますが、学生時代、教授に目を付けられていた分しっかり覚えて頂いており、今でもかわいがっていただいております。



3. 社会人スタート

1999年
大学を卒業後、祖父の経営していた守田化学工業株式会社に入社しました。
世界初のステビアという天然甘味料の製造販売の会社で、砂糖やカロリーを減らす商品などにステビアを提案するために、色々と試食を繰り返しておりました。

営業は、車での移動が多く、ほとんど歩かない生活が続き、食事でもラーメンやおにぎり、今でいう糖質三昧でしっかりと体重が増加しておりました。

2004年
ステビアを海外に広げていく為に、WHOに申請を行いました。

専門家からは、ステビアは口に入れるもので一番安全のデータがそろっているので、他の物よりは早く許可が下りると言っていました。

これはすぐに許可も出るなと思い、今後は海外だ！と考えた時に、当時、社内に英語が話せる人間がいない！という事に気づきました。

誰も英語が話せないのに、どうやって英語が話せる人を雇うんだ？？ってなり、次男が生まれたばかりではありませんでしたが、英語を勉強に行くと決め、半年間アメリカに行きました。

アメリカでは日本人も多く、すぐに日本語で話してしまわない為、自分のことを韓国人と言っていました、この見た目、韓国人にも韓国人とみられるくらいで、一度も日本人に見られることはありませんでした。

帰国後、営業を続けている中で、薬学部が4年制から6年制になるというニュースがあり、私は一度も薬局で働いた経験がなかった為、6年制になる前に経験をしておきたく、仕事を他のスタッフに任せ、2007年にスギ薬局に就職させていただきました。

スギ薬局を選んだのはお医者様からの処方箋を処理する調剤業務とOTCといわれる処方箋がなくても買える薬の両方の経験ができる事と、大手の社員管理等のシステムも学べるのではないかという思いからでした。

スギ薬局では今はわからないですが、当時は推奨販売品といわれる一般的に利益率の良い商品の販売でポイントがもらえるのですが、研修時のポイントは過去最高ポイントの倍くらいで、推奨販売品が売り切れてしまうくらいでした。

外国のお客様にも、英語で対応できるというのもメリットではあったのですが、なにか困って買い物に来る人に薬剤師が白衣を着て販売するとなんでも買ってくれました。ステビアに比べればなんて売りやすいんだろう。それが一番の印象でした。

研修後、すぐに店長にとの話もあったのですが、辞めることは決めていたので、断り続け、新店舗の立ち上げなどのお手伝いをさせていただくことでかなり勉強させていただきました。

そうこのしてる間に、2008年、ステビアが海外でも認められ、スギ薬局を退社させていただき、守田化学に戻りました。

戻ってからは、年間半分以上海外に出張し、現地の代理店や政府との交渉を担当しておりました。

そうすると、飛行機に乗ってる間も動かない。現地では日本人は小さく見えるので太ってる感じがしない。一人前の食べ物が異常に多い。

そう、太る要因たっぷり、どんどん成長していき、体重も100kgを超えてしまいました。

2009年に銀行のお付き合いで勉強会に参加した時に、ロータリーに誘って頂いた松下さんに初めてお会いしたのですが、当時の私はかなり大きかったと思います。

その後も出張生活は続き、体重が120kgを超えた段階で、これは死んでしまうと思い、ダイエットを開始。

そう、今の仕事に繋がります。



4. J-Inter 株式会社の立ち上げ

痩せるなら糖質を控えよう。ステビアを提案してるのに糖質で太っている場合ではない。

そう思い、糖質制限ダイエットを開始。

自己流で10kgほど痩せた段階で、ライザップを試してみよう。そう思い、ライザップを契約。3カ月のプランで契約したのですが、出張続きでなかなか行けず、で結局辞め、食事のみの自己流で頑張る事にしました。

甘い物が食べたい時はステビアの試作品でしのぎ、30kgくらいダイエットに成功した段階で、ふと思いました。

これ、ダイエットだから頑張ってるけど病気だったら一生こんな食事ってめっちゃ辛いやん。

コンビニも当時はサラダチキンとかしがなく、まったくおいしくない。数字見てごはんを選ぶって、これは食事ではなく栄養摂取やん。

ちゃんにご飯が食べれるところってないのかな？そう思い、インターネットで探しても、全然ありませんでした。

これは作るしかないか。。。

そこで、病気の人でもダイエットの人でも安心して食べられる低糖質食の専門店を作ることに決めました。メニューはなんとかあるけど、デザートはどうしよう。。。となった時に松下さんからケーキ屋さんを持ってるから相談のるでと言ってもらい、松下さんにケーキ屋さんを紹介してもらい、ステビアを使って低糖質で美味しいケーキを何度も試作して頂きやっと完成させることが出来ました。

そして2016年に心斎橋にローカーボキッチン然をオープンすることができました。

低糖質は美味しくない。そんなイメージがあるので、宣伝で美味しいって言っても誰も信じないだろう。

そう思って宣伝はせず、口コミ戦略でお客様としっかり話をする営業スタイルを導入。
来店動機やなぜ糖質を控えているのかなどいろいろな話をお客様に聞かせていただきながらコンセプトを修正していきました。

その中で特に印象に残ってるのは、おばあちゃんを含めた家族が6名でご来店いただき、若い二十歳くらいのお孫さんが突然泣き出された事です。
話を聞いてみると、糖尿病のおばあちゃんの前で美味しいって言えなかったそうです。
いつもはおばあちゃんだけが別メニューで、目の前で違うもの食べているのでおばあちゃんが食べたくなくなってしまっているのではないかと。
おばあちゃんが食べてる物はいつも美味しくなさそうで、見ていてつらかったそうです。
同じものを食べておいしいって言うお店を作ってくれてありがとうございますと最後に笑顔で帰ってくれました。

その後も色々な方から話を聞くと、ご病気を持たれている本人よりも、その周りの方の方が泣かれる方が多く、ご家族も大変な思いをされている事を実感し、お店のコンセプトに「あったら嬉しいが食べられる」を追加し、よりお客様により沿った営業方針に変更しました。

低糖質の原材料は原価が高く全然もうからない中、口コミで話題も広がり、なんとか2019年に高槻に2店舗目を出店する事ができました。

ちなみにお客様で毎日当店に通って頂いた方のビフォーアフターを紹介させていただきます。



こちら、心斎橋でウーバーイーツのドライバーをされている方です。
筋トレもかなりの頻度で行かれており、2カ月でこんなに変わっております。



こちらは、高槻在住のお医者さん。
もともと筋トレが趣味という事で筋肉は多い方でした。
筋トレは週に2回で行かれております。



こちらは高槻の某市議会議員さん
若いころは痩せていたそうですが、不摂生で太ってしまったとの事。
筋トレは忙しくなかなか行けてないとの事で月に2回くらいしか行けておりませんが、しっかりと結果はでますね。



最後にこちら、私の昔の写真になります。
真ん中の頃で100キロちょっと超えたくらいですね。
海外に行ったのでひげとか生えてますが同一人物です。



こんな感じで低糖質の食事を広めていこうと考えていたところ、コロナです。

健康志向のお店だけに皆さん自粛がすごい。

ニュースに出るたびに予約がピタッと止まり、キャンセルが続く。

そんななか、今何ができるのだろうかと考えていたところ、就労継続支援B型というものがあると聞きました。



実は、お店を営業している中で、低糖質の食事はダイエットや糖尿病の方だけではなく、てんかんの治療の一環としてすでに保険適用になっているという事を知りました。

まだ勉強中なのですが、こちらが3カ月かんのてんかん発作の回数が半分以下になった方の割合で、完全に出なくなった方もおられるようです。

てんかんは突然発作がおきる病気で、発作がおさまると元気になる。

そう、私のもっている喘息と同じなのです。

喘息にはすぐに効果が出る薬がありますが、てんかんは発作がおきたら収まるまで何もできない病気です。

また、てんかんだけでなく、「発達障がい」や「がん」などにももしかしたら効果があるのではないかとともに言われ始めております。



さらに、知的障がい者の肥満率も健常者で男性約30%、女性約18%に対して、65%を超えているというデータがあります。

知的障がい者の肥満度は肥満判定となるBMI25以上が男性で65.2% (健常者男性30.6%)、女性で68.8% (健常者女性18.2%)である。

兄に障がいがあり、苦勞している親も小さいころから見てきたなかで、そんな方に何かお役に立てる方法がないのかな？

薬剤師として食事から何か力になれることがあるのではないかな。

と考えていたところ、B型の作業所を作り、通所される方に賄いとして低糖質の料理を出せばいいのではないかな。

もし、少しでも症状がよくなるなら、たとえなくても肥満が解消されるならきっと本人も介護するご家族も助かるはず。

そんな思いで今まさにB型の作業所を立ち上げる途中でございます。

調べているとサービス管理責任者といわれる方を雇用しなければいけないという条件があるそうです。

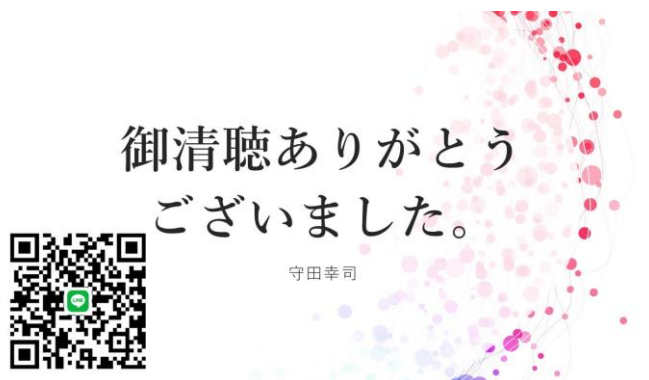
もし誰か資格を持っている方をご存じでしたら、是非紹介してください。

ということで、私の履歴書はまだ書きかけでございます。

これから皆様と一緒に書きかけの履歴書を完成させていければと思います。

長々と、お付き合いいただき、ありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。

最後にLINEのQRコードを載せております。是非追加お願い致します。



◎ニコニコ箱報告

- ・誕生記念内祝
- ・入会記念内祝

山口君、松尾君

拝郷君（入会記念お祝を頂きまして誠に有難うございます。初心を忘れず諸先輩方についてまいります。）

- ・創業記念内祝 河合君

- ・来村さん、守田さん、卓話良かったですよ！ 松下君
- ・私の履歴書を聞いていただきありがとうございます。

守田君

本日の合計	¥	30,000-
7/1 よりの累計	¥	398,000-

◎R 財団への寄付（年次）

河合 一人君	¥ 5,000-	松尾 浩君	¥ 5,000-
山口 誠君	¥ 5,000-		

本日の合計	¥	15,000-
7/1 よりの累計	¥	170,000-
一人当たり平均		\$ 29.76

◎R 財団への寄付（ポリオ）

石田 佳弘君 ¥ 5,000-

本日の合計	¥	5,000-
7/1 よりの累計	¥	33,000-
一人当たり平均		\$ 5.78

◎米山奨学会への寄付

松下 浩章君 ¥ 5,000-

本日の合計	¥	5,000-
7/1 よりの累計	¥	175,000-
（ 会員より	¥	70,000-
（ クラブより	¥	105,000-
一人当たり平均	¥	4,167-

◎青少年育成基金への寄付

本日の合計	¥	0-
7/1 よりの累計	¥	15,000-



◎8/17 卓上花

ワレモコウ

・・・ 愛慕

ヒマワリ

・・・ あなただけを見つめる